

一人ひとりが自立し、ともに生きる力をどう育てるか

—自分らしく生きることを考える実践を通して—

I 研究の概要報告

II 実践報告

「自分らしさを大切にし、主体的に生き方を選択できる生徒の育成」

III 研究のまとめ

I 研究の概要報告

1 はじめに

「ジェンダー平等教育」は、「両性の自立・平等教育推進委員会」の提言をもとに、人権教育の一環として子どもの自立をめざした教育の研究をすすめてきた。

近年「男女共同参画社会」という言葉も世の中に浸透し、女性の社会進出はめざましくなってきた。育児・介護にかかわる制度も充実してきている。また、男性が「主夫」として働いたり、育児休業を取得したりというように生き方も多様化している。反面、依然として旧来の性別による固定観念が残っており、少なからず子どもたちに影響を与えていると考えられる。価値観が多様化した現代だからこそ、性別にとらわれることなく、子どもたちには自分に自信をもち、自分らしさを大切にしたい生き方をしてほしいと願っている。

そこで、子どもたちが性別にとらわれずに友だちのよさを認め、自分のよさにも気付いて自信をもつこと、また、自分の考えをもち行動する力を身につけることで、自分らしい生き方ができる子をめざしてテーマを設定した。

2 テーマ

一人ひとりが自立し、ともに生きる力をどう育てるか
—自分らしく生きることを考える実践を通して—

3 研究のねらい

「男女共同参画社会」とは、男女が互いにその人権を尊重しつつ、責任をわかち合い、性別にとらわれることなく、その個性と能力を発揮できる社会である。現代社会において、一人ひとりが輝いて豊かに生きるためには、それぞれが一人の人間として、自分らしく生きることが大切である。

研究対象である中学1年生は、自己のアイデンティティを確立していく上で重要な時期といえる。アイデンティティは自分自身を理解し、自分の存在価値や役割を見出す上で非常に重要な概念である。そして、自分らしい生き方をするためには、アイデンティティの確立は欠かせないものである。学校教育においては、中学校という新しい環境で友だちや教職員との関係を築き、部活動や学校行事などに参加することで、多くの新しい経験が得られる。また、総合的な学習の時間や、学級活動、道徳などの活動において、他者と意見交換したり、自分を見つめ直したりする場を設定することで、社会性や協調性を身につけたり、自己理解や他者理解を深めたりしながら、思考力や自己表現力を向上させることができると考える。

そこで、本研究を通して、一人ひとりが自分が大切な存在であると実感し、自分のよさを発揮しながら互いに認め合い、協働的に活動できる子どもを育てたい。そして、自分らしい生き方やよりよい社会について考える力を育みたい。

4 研究の方法

- (1) 自立の教育にむけての実態調査
 - ・自分らしさの自覚についての調査
 - ・性別についてのイメージや職業についての意識調査
- (2) 授業実践
中学1年生（学級活動 総合的な学習の時間 道徳）
「自分らしさを大切に、主体的に生き方を選択できる生徒の育成」
- (3) 啓発活動
 - ① 教職員への啓発活動
 - ・「愛知父母と教職員の会」での提案及び分散会における話し合い
 - ・「青年部・女性部合同学習会」での意見交換
 - ・「女性部報」、機関誌「はりみち」への関連記事掲載
 - ・単組・支部の女性部・教文部などでの学習会
 - ② 保護者への啓発活動
 - ・「愛知父母と教職員の会」での提案及び分散会における話し合い
- (4) まとめ
 - ・成果と今後の課題

II 実践報告

1 授業実践のテーマ

中学1年生（学級活動 総合的な学習の時間 道徳）

「自分らしさを大切にし、主体的に生き方を選択できる生徒の育成」

2 生徒の実態

本学年は3つの小学校から集まった生徒たちで構成され、4学級にわかれている。学年目標に「あい」を掲げ、互いに認め合い、支え合い、高め合える集団をめざし、係や委員会活動、総合的な学習の時間などの諸活動にとりくんでいる。男女の仲は比較的良好、交流する場面が多くある。また、主張が強い生徒もいれば、あまり自己表現ができずにおとなしく生活している生徒もいる。互いに自分の主張を優先してしまってトラブルに発展することもあり、まだ幼さがみられる。

本実践のめざす生徒像に迫るための意識調査として、以下の質問項目を、①、⑤は記述式、②～④は（はい・いいえ）の2択で回答させ、「はい」と回答した生徒には、「嫌な思いや不公正な体験」、「男にしかできない役割・仕事、女にしかできない役割・仕事」をそれぞれ記述させることとした。

- | |
|---|
| ① 「男らしさ」「女らしさ」とは何だと思えますか。 |
| ② 今までに、「男だから」「女だから」ということでいやな思いや不公平な体験をしたことがありますか。（はい・いいえ） |
| ③ 家の中の役割で、男にしかできない役割、女にしかできない役割はあると思えますか。
（はい・いいえ） |
| ④ 男にしかできない仕事、女にしかできない仕事はあると思えますか。（はい・いいえ） |
| ⑤ 「自分らしく生きること」とは、どのようなことだと思えますか。 |

本学年の生徒は、質問①について、「男らしさ」は「強い」「頼りになる」「カッコいい」「家族を養う」、「女らしさ」は「大人しい」「優しい」「かわいい」「おしゃれ」「家庭的」という回答が多くみられた。一方で、「男らしさや女らしさなんてものはない」「人それぞれにその人らしさがあるから、男全員や女全員に共通するらしさはない」という回答もあった。

質問②では、約22%の生徒が「はい」と回答した。その内容として、「男だから重い荷物を運べと言われた」「男子から『女のくせにくち出しするなよ』と言われた」「もっと女の子らしくおしとやかにしなさいと言われた」「洗濯物をうまくたためなかったときに、『女なのにうまくたためないんだ』と言われた」「男なのにかわいいものとかきれいなものとかイケメンが好きとか気持ち悪いと言われた」というものがあがった。

質問③では、約93%の生徒が「いいえ」と答え、家の中での役割に対しては性別にとらわれずに行うべきであるとする生徒がほとんどであった。一方で、「はい」と答えた約6%の生徒は、男の役割を「力仕事」、女の役割を「育児」「料理」「洗濯」と考えていることがわかった。

質問④では、約29%の生徒が「はい」と回答した。「男にしかできない仕事」には、家の中での役割同様、「力仕事」が多く、他にも「政治家」「大工」「工事現場の仕事」「パイロット」「車の修理業者」「引っ越し業者」などがあがった。「女にしかできない仕事」には、「美容関係」「キャビンアテンダント」「看護師」「養護教諭」「婦人科の医師」「かわいいものを売る店の店員」などがあがった。質問③の家庭の中での役割と比べると、社会的な役割分担にはジェンダーの固定観念が生徒の中で大きいことがわかる。

質問⑤については、「他人にとらわれず、自分のやりたいことをやること。」「自分の個性を大切にすること」「自分の意見を尊重し、やりたいことや体の性別関係なく生活すること」という回答がみ

られた。特に、「周りに合わせずに」や「人に左右されずに」という言葉を使う生徒が多く、周囲からの評価を気にせずに生きることだという意見が多くみられた。しかし、中には、「ルールやマナーを守り、自分で考えて生きること」「みんなで協力しつつ、自分のやりたいこともしっかりやること」「自分や仲間の一人ひとりの個性を大切にすること」というように、自分自身だけでなく、周りの人々にも関心をよせる内容を記述をする生徒もいた。

以上の実態調査の結果から、ジェンダーに固定観念をもっている生徒は多くはないものの、社会的な役割分担に関しては、性別によって適性があると感じている生徒がいることが家庭での役割分担と比較して多いことがわかった。また、アンケートの最後に、ジェンダーに関して思うことを自由に記述させたところ、「アンケートを通して、自分が無意識に偏見をもっていることがわかった」と記述する生徒もいた。この生徒のように、アンケートには表出していないが、潜在的にジェンダーに対して固定観念をもっている生徒がいることも考えられる。さらに、「自分らしく生きること」については、「“自分が”自分らしく生きる」ことの範疇で考えがとどまっている生徒が多いため、「みんなが”自分らしく生きる”ことにまで考えを広げられるようにしていく必要があると感じた。

このようなことから、家庭内及び社会的な役割分担における固定観念や、自分らしく生きることについて話し合い、さまざまな考えにふれ、考えを広げる機会を設けることが大切であると考え。そして、中学校卒業後の進路だけでなく、生涯を通して自分らしさを大切に、自己実現にむけた進路選択を考えられる生徒を育成していきたい。

3 めざす生徒像

- 自分自身や周りの人々を受け入れ、多様性を認めることができる生徒
- ジェンダーに関する偏見やステレオタイプにとらわれず、自分らしく生きることについて考えることができる生徒

4 実践のてだて

てだて① 自分自身や周りの人々を受け入れ、多様性を認めることができる生徒に迫るために

○話し合いの場の設定

- ・生徒が自分の意見を発言することができるように、自分の意見を考える時間を設け、その後に隣どうしや3～4人のグループで考えを伝え合う時間を設ける。

○振り返りの場の設定

- ・ジェンダー平等にかかわる学習内容や話し合いを通して、自分の成長や変容を振り返ることができるように、考えたことや意見をワークシートやポートフォリオに書かせる。
- ・多様な意見に気付いたり、自分の考えを広げ、深めたりすることができるように、ポートフォリオの記述内容を共有したり、学年フロアに掲示したりする。

てだて② ジェンダーに関する偏見やステレオタイプにとらわれず、自分らしく生きることについて考えることができる生徒に迫るために

○性別に対する思い込みを見直すための教材と問いの工夫

- ・生徒が、ジェンダーに関する固定観念に気付いたり、他者への理解を深めたりすることができるように、学級活動や総合的な学習の時間、道徳の時間で、ジェンダー平等に関する教材を用いて、「自分らしさ」や「ジェンダーに関する固定観念にとらわれない進路選択」とは何かをみんなで考え、議論する。

5 実践計画

時期	学習活動
4月	実態調査①・分析 ※ 質問紙による実態調査
5月	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 授業実践①【総合的な学習の時間】 「自分らしく生きることについて考えよう（家族の協力の視点から）」 </div>
6月	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 授業実践②【道徳】 「職場体験学習」 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> 授業実践③【総合的な学習の時間】 「自分らしく生きることについて考えよう（社会的役割の視点から）」 </div>
7月	実態調査② <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> 授業実践④【総合的な学習の時間】 「福祉実践教室」 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> 授業実践⑤【学級活動】 「みんなが自分らしく生きることができる社会について考えよう」 </div> 実態調査③

自分自身や周りの人々を受け入れ、多様性を認められることができる。

ジェンダーに関する偏見やステレオタイプにとらわれず、自分らしく生きることができるようになる。

「自分らしさを大切にし、主体的に生き方を選択できる生徒の育成」

6 抽出生徒について

4月の実態調査をふまえて、2人を抽出生徒とし、実践の成果と課題を検討することにする。

- (A)・男にしかできない仕事は工事、女にしかできない仕事は看護師と回答。
 ・自分らしく生きることについて、「自分の個性をいかして、自分の考えで生きること」と考えている。
- (B)・男だから、女だからという理由でいやな思いをしたことがあると回答。小学生のときに、先生が無意識に男女の差別をしていると感じたことがある。
 ・自分らしく生きることについて、「自分の考えのままに素直に生きること」と考えている。

7 実践の様子

授業実践①【総合的な学習の時間】 「自分らしく生きることについて考えよう（家族の協力の視点から）」

授業のはじめに、4月にとったアンケートの中から、「家の中の役割で、男にしかできない役割、女にしかできない役割はあると思いますか。」の質問に対する結果を提示した。その後、「主人公の実家の両親は共働きだが、父親は家事に参加していない。ある日、主人公が共働きの兄夫婦を訪れると、夫婦で一緒に家事を行っていた。その姿を見て、主人公は『家事は女がするものって思いこんでいたけれど、どうしてだろう?』という疑問をもった。」という場面を設定し、グループにわかれてこの場面の続きのロールプレイングを行った。主人公の疑問に対して、「昔は男の人が仕事をして、女の人が家事をしていたから」「昔の人がそう考えていて、今もその考えが受け継がれているから」と会話を続けるグループがいくつかあった。また、主人公の兄夫婦を演じた生徒の中には、妻が「今日はハンバーグを作るね」という妻の言葉に対して、「じゃあ、片付けは僕がするね」と夫が

答える会話を考えた生徒がいた。「男の人だから、女の人だからってやることは決まっていない。自分がやりたいことをすればいいし、自分ができることをすればいい。」というセリフを考える生徒もいた。

その後、自分の家庭生活を振り返る場面を設けたが、家族の家事・育児負担を点数化することで、「お母さんがほとんど負担している」「うちはお父さんも家事をしたりしているけど、やっぱりお母さんの負担が大きい」「自分は全然やっていなかった」など、家庭の仕事が想像以上に偏っていることに多くの生徒が驚いていた。

【授業の感想より】

- ・自分の家族でもお母さんの労働時間が多いことに気付いたので、これからは家事に協力していきたい。(A)
- ・思いやりをもった行動をして、家族の負担を軽減していきたい。(B)
- ・男女の役割分担はないと思っていても、実際は自分も全然できていないことに気付いた。
- ・性別以前に、同じ家族だから協力する心をみんながもつべきだと思った。
- ・女は家事、男は仕事をするのではなく、男も女も家事をして、男も女も仕事をする、という方がいいと思う。
- ・将来家庭を築いたときには、相手任せにせずに自分も家事に参加したい。

考察 ロールプレイングを行うことで、昔からの家事に対する固定観念が存在していることに気付かせ、これからの社会にむけて、よりよい家族関係を築くにはどうしたらよいかを考えさせることができたと考える。また、自分の家庭生活を振り返ることで、生徒の感想にもあるように、男女の役割分担はないとわかっているにもかかわらず、実際には母親や祖母に大きく負担がかかっていることに気付いた生徒が多くいた。これからの家庭生活中、自分でできることは協力していきたいという感想も多く、性別関係なくできることは協力し合ってやっていこうとする態度を養うきっかけになったと考える。

授業実践②【道徳】「職場体験学習」

職場体験の体験先の希望調査で、主人公は保育園を希望したが、保育園を希望した生徒が受け入れ人数より多く、さらに男子は主人公だけだったことから、周囲の人から希望先を変えるべきだと言われ、主人公は悩んでいる、という内容の資料を扱った。主人公は希望を通すべきか変えるべきかを考えさせたところ、「希望を通すべき」を選んだ生徒が圧倒的に多かった。理由としては、「今回諦めたら後悔してしまうから」「保育士は男性でもできる仕事だから、諦める必要はない」「自分のことなので、周りに言われて希望を変える必要はない」という意見が多かった。一方で、「希望を変えるべき」を選んだ生徒の理由としては、「差別をされて嫌な思いをするくらいなら、変えた方がいい」という意見が多かった。途中で「見ためがいかついと小さい子が怖がるから、保育士はやっぱり女性の方がいい」という発言があったが、それに対して、「自分が通っていた保育園には、男性の保育士がいたけど、全然怖くなかった」と返すやりとりがあった。

次に、「小さな子の世話は女子の方が適しているか」「もし主人公が希望を通したらどんなことが考えられるか」「もし主人公が希望を変えたらどんなことが考えられるか」の視点で、グループで話し合い活動を行った。はじめはマイナス面ばかり意見が出ていたが、プラス面も考えてみるよう全体に声かけを行ったところ、さまざまな視点で話し合うことができていた。話し合い後、再度、主人公は希望を通すべきか変えるべきかとその理由をワークシートに書かせたところ、「希望を変えるべき」に考えを変えた生徒が若干名いた。考えを変えた生徒の理由には、「自分のしたいことができるのが一番だが、差別や仲間外れにされるのはいやだから」と書かれたものがあった。

【授業の感想より】

- ・ 周りに「男だから」「女だから」と言われても、自分の意思で一步踏み出すことは大切だと思う。(A)
- ・ 自分が差別をする側にならないようにしようと思った。女性、男性という性別ではなく、その人の内面を見ていきたい。(B)
- ・ 男だから、女だからという理由で夢を諦めなくてもいいと思った。自分がやりたいと思ったことに自信をもとうと思う。
- ・ 男だから、女だからできないということは関係ないと思った。そういう差別で夢を諦めたり、一生後悔したりするよりは、自分の気持ちを大切に男女関係なくできるといい。
- ・ 僕が希望を変えるべきと思った理由は差別やいじめなので、男女平等社会が進み、誰でも好きな職業につけるようになれば希望を通せると思った。

考察 はじめに主人公は希望を変えるべきかどうか考えさせたときの理由は、「自分がやりたいことをやればいい」「差別されるのが嫌だから」という理由が多かった。しかし、話し合い後は、「自分が保育士体験をすることで、男女関係なく保育士ができることを見せられるから。」「見たためや性別で決めるのはおかしい。性別よりも性格が大切だと思う。」や、「自分のやりたいことをできるのが一番ではあるけど、差別や嫌がらせをされる方がつらいから。」というように、理由に深まりがみられた。また、自分とは違う考えについても、「確かにそうだよね。」「なるほど。」というように、意見を受け入れようとする姿もあった。本実践は、職業に性別は関係なく、自分のやりたいことを尊重することが大切であるということとともに、差別があることで一步が踏み出せない状況が世の中にはあることも気付かせる機会となった。

授業実践③【総合的な学習の時間】「自分らしく生きることについて考えよう（社会的役割の視点から）」

授業のはじめに、ジェンダーに関する水平思考クイズ（資料1）を行った。

（資料1） 水平思考クイズ

父親とその息子がひき逃げ事故にあった。事件性が高いと判断した警察は、捜査を開始した。父親は助からなかったが、一命をとりとめた息子に事情を聞いた刑事はこう言った。
「あの子は私の息子だ。」
いったいどういうことだろうか。

はじめは全員が「この文章がおかしい。」という発言をしていたが、ヒントを出していくと徐々に「そういうことか。」という声が増えはじめ、文章がおかしいのではなく、自分たちが「刑事＝男」という先入観をもっていたことに気付いていった。「なんで刑事は男性だと思ったの？」と聞くと、「ドラマとか漫画に出てくる刑事は男性が多いから」という発言があった。そこで、「刑事のほかにも、性別でイメージしてしまう職業はないかな？」と聞くと、消防士、保育士、自衛隊、料理人、大工、校長先生、政治家、看護師、メイクアップアーティストなど、さまざまな職業があがった。さまざまな職業があがる中で、保育士や看護師などは、「両親が看護師だから、看護師に男女のイメージはない」「通っていた保育園の先生に男性の先生がいた」といった声が上がった。ここで、「性別のイメージがない職業は何がある？」と聞くと、ピアニスト、秘書などがあがったほか、先ほど出てきた看護師、保育士、校長先生なども出てきた。

次に、「職業に対する先入観はなぜ生まれるのだろうか？」と聞いたところ、ドラマや絵本、漫画などの影響、身近な人の職業からのイメージ、「男性＝力仕事」「女性＝こまかな仕事」というイメージからの思い込み、と答える生徒が多かった。「このような先入観があることで、どんなことが起こりうるだろう？」と聞いてみたが、考え込んで発言する生徒がいなかった。そこで、メイクアップアーティストを例にとって、「化粧をする＝女性というイメージがあると思うけど、最近は男性も化粧をしている人が増えているよね。どう思う？」と聞いてみた。すると、「別にいいと思う」と言う生徒もいれば、「芸能人は仕事だからいいけど、一般の男性が化粧をするのはちょっとなあ…」と発言する生徒もいた。すると、「先入観があることで、やりたいことができずに生きづらさを感じてい

る人がいるのではないかとつぶやいた生徒がいた。そのつぶやきをもとに、「これからどんな社会になっていくといいと思う？」と投げかけ、本時の振り返りをワークシートに書かせた。生徒のワークシートには、「先入観があることで生きづらさを感じる人もいることがわかった。そんな人をなくすために、イメージを少しずつ変えていけるといいと思った。」という記述がみられた。

【授業の感想より】

- ・先入観があることで、生きづらさを感じる人もいることがわかった。そんな人をなくすために、イメージを少しずつ変えられるといいと思った（A）
- ・男女関係なく、みんなが幸せになれる社会になってほしい。（B）
- ・今でも性別によるイメージの偏りは大きくて、職業に対する先入観がなくなれば、どんな人も自分らしく、自分のやりたいように生きていけると思う。
- ・先入観にとらわれずに自分の考えで働いていきたい。
- ・性別によって思い込んでいる職業が思ったよりあって驚いた。男女の差をなくしていくために、自分たちも思い込みをなくしていかないといけない。

考察 4月に行ったアンケートでは、職業に対する男女のイメージをもつ生徒は29%だったが、実際にこの授業を行ってみると、「刑事=男」というように、職業に対して性別の先入観をもっている生徒が多くいることがわかった。生徒自身も、自分たちが思っていたよりも先入観をもっていることに驚いた様子で、この授業を通して、生活環境の影響から無意識に職業に対する先入観が生まれていること、また、その先入観により生きづらさを抱えている人がいることに気付かせることができたと考える。しかし、感想を見ていると、「男女関係なく職業を選べるようになってほしい。」「職業に対する先入観がない社会になってほしい。」など、他人事としてとらえているものが多く、それに対して自分はどのようにするとよいかというように、自分のこととしてとらえることができていない生徒はあまりいなかった。今後、みんなが自分らしく生きることができる社会のために、自分がどのようにかかわっていくとよいかを考えさせる必要があると感じた。

授業実践④【総合的な学習の時間】「福祉実践教室」

本校は、毎年中学1年生を対象に、地域の障がいをもつ方を講師に迎え、福祉実践教室を行っている。実践前、実践、実践後の計画は、以下のとおりである。

	学習活動
事前学習 (2時間)	<ul style="list-style-type: none"> ・講座ごと（車いす、手話、点字、ガイドヘルプ、高齢者疑似体験）にわかれて調べ学習を行い、レポートにまとめる。 ※めあて「障がいをもつ方が自分らしく生きるために、私たちにできることは何だろう。」とし、その視点もレポートに取り入れて作成する。
福祉実践教室 (2時間)	<ul style="list-style-type: none"> ・各講座にわかれ、講師の方から話を聞いたり、実際に体験をしたりする。
事後学習 (1時間)	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉実践教室を終え、話を聞いたり体験したりしたことをふまえて、レポートを完成させる。

事前学習では、どのような障がいなのかや、社会の中で障がいをもつ方にむけて工夫されていることなどをインターネットで調べ、レポートにまとめた。

福祉実践教室当日には、実際に障がいをもつ方やその方たちを支える仕事をされている方を講師に迎え、ご自身の障がいについての話や苦労されていることなどの話を聞いたり、実際に車いすや手話、点字など、それぞれの講座で障がいをもつ方の視点になって体験したりした。体験前は、「楽しそう」という生徒が多かったが、実際に体験した後は、「思ったよりも大変だった。障がいをもつ方は毎日こんなに大変な思いをしていたなんて知らなかった。」と驚いていた。

事後学習では、福祉実践教室で学んだことをふまえて、レポートを完成させた。事前学習のときよりも自分たちにできることについてより具体的に書くことができる生徒が多くいた。

【授業の感想より】

- ・困っている人を見つけたら、教えていただいたように人助けをしたい。(A)
- ・今回の講座を通じて、私たちが障がいをもつ方にできることは、生活の中で負担をかけないようにすることだと思った。マナーを守ったり、困っている人がいたらお手伝いをしたりして、誰もが過ごしやすい社会にしたい。(B)

考察 周りを受け入れるためには、まずは知ることが大事であると考え、障がいについてやどのような苦勞があるのか、今の社会ではどのような工夫がされているのかなど、各自で何について知りたいかテーマを決めて調べ学習を行った。それを受けて福祉実践教室を受講することで、講師の方に積極的にかかわったり、質問したりする姿が多くみられた。今回の実践は直接ジェンダーに関するものではないが、自分自身や周りの人々を受け入れ、多様性を認めるという面では重要な実践であったと考える。

授業実践⑤【学級活動】「みんなが自分らしく生きることができる社会について考えよう」

実践①から④を受けて、自分だけでなく、みんなが自分らしく生きることができる社会にするために、自分にできることについて考える実践を行った。「どのような社会になると、みんなが自分らしく生きることができるようになりますか？」という質問をしたところ、「男性でも女性でも認められる社会」「性別関係なく、個性を認め合い、自分の道を選べる社会」「差別をなくし、個性をいかし、意見を尊重し合える社会」「みんなが好きなことをしても受け入れることができる社会」「性別ではなく、個人の性格や能力で差別なく平等に接する社会」「一人ひとりの違いを認め合って、差別的な考えをなくせる社会」というような意見が多く出た。「差別」という言葉が多く使われていたため、どのような差別があるかを全員で考えた。すると、性別だけでなく、「肌の色」「貧富」「見ため」「賢さ」「年齢」など、さまざまなものが出てきた。特に、「性別」「見ため」「賢さ」などには多くの生徒が反応し、今まで経験したエピソードを話す生徒もいた。

これらの発言を受けて、「では、みんなが今発表してくれた社会を実現するために、自分がこれからできること、すべきことは何だろうか？」と聞き、ワークシートに書かせた。はじめは考えが出てこない生徒もいたが、学校や家の中など、今の生活の中でできることから考えればよいことを伝え、書きはじめることができた。生徒の考えには、「男女関係なく接し、協力し合い、かかわり合う」「相手の意見や個性も、自分の意見や個性も、どちらも大切にする」「自分がかかわる人と、お互いを認め合って生活する」「なんとなくしかわからないジェンダーについて、きちんと知ること」「性格や個性をバカにしたり否定したりしない」「みんなの考えをすぐに否定せず、自分勝手に生きない」など、互いに認め合って生活することや、ジェンダーについての正しい知識を身につけることについての意見が多くみられた。

【Aのワークシートより】

- ・人に「女の子だから」「男の子だから」などの差別をするような発言をやめる。
- ・人の性格や個性を否定するような発言、行動をやめる。

【Bのワークシートより】

- ・女性がやること、男性がやること、という偏見をもたない。
- ・思いやりの心をもつ。

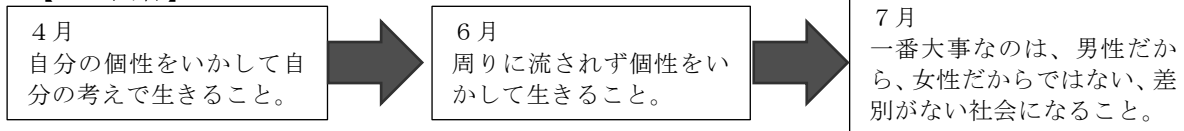
考察 これまでの実践では、自分をもつジェンダーに関する固定観念や自分らしく生きることについて考えてきたが、本実践では、自分だけでなく、みんなが自分らしく生きることができる社会について考えた。今までは、どこか他人事としてとらえていた生徒も、今回の実践を通して、今の自分にできることを具体的に考える機会となった。

8 実践の成果と課題

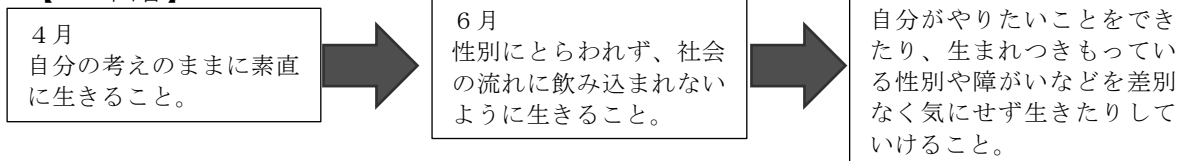
(1) 実態調査の結果

4月に行った『自分らしく生きること』とはどのようなことだと思いますか。』という質問を、実践③と実践⑤のあとに再度行った。4月には、“自分が”自分らしく生きることについて書いている生徒がほとんどであったが、6月にはジェンダーを意識した内容が加わり、7月には、自分だけでなく“みんなが”自分らしく生きることについて記述する生徒が徐々に増えていった。

【Aの回答】



【Bの回答】



(2) てだてについて

てだて① 自分自身や周りの人々を受け入れ、多様性を認めることができる生徒に迫るために

友だちと話し合う際に、自分の意見を発言することができるように、自分の意見を考える時間を設け、その後に3～4人のグループで考えを伝え合う時間を設けた。自分の意見を考える時間を設けることで、自分の意見をしっかりとって話し合い活動に参加することができていた。また、他の人の意見に対して、うなずいたり、相づちを打ったりするなど、自分とは異なる考えに対しても受け入れようとする姿がみられた。授業の振り返りにも、「他の人の意見を聞いて、自分とは違う意見だったけど、なるほどと思った」という記述もみられた。

また、キャリアパスポートにワークシートをつづり、自分が考えてきたことを授業で振り返られるようにした。さらに、「自分らしく生きること」についての質問は、多様な意見にふれることができるようにオンライン学習システムで全員の考えを共有できるようにした。また、学年のフロアにある掲示板にも回答をいくつかピックアップしたものを掲示した。休み時間にオンライン学習システムを開いて閲覧する生徒や、掲示板を見る生徒もいたが、授業内で見える時間を確保することが難しかったため、全員が見たり、お互いの考えを見て話し合ったりすることができず、多様な意見に気付かせたり、考えを広げさせたり、深めさせたりすることはあまりできなかった。今後は、「自分らしく生きること」についても、考えを共有する時間や話し合う時間をしっかりとるよう、時間の確保や共有方法の工夫をしていきたい。

てだて② ジェンダーに関する偏見やステレオタイプにとらわれず、自分らしく生きることについて考えることができる生徒に迫るために

実践①、②、③では、主にジェンダーに関する偏見やステレオタイプについて考える実践を行った。4月に行ったアンケートでは、ジェンダーに関する固定観念があまりない集団のように思われたが、実際に授業を行っていく中で、生活環境による影響で無意識のうちに固定観念をもっていたり、わかっているにもかかわらず実際に自分の生活を振り返ってみると行動は伴っていなかったりしていることに生徒が気付くことができた。

実践④、⑤では、主に自分自身や周りの人々を受け入れ、多様性を認めることについて考える実践を行った。実践④については、ジェンダーに関することではないが、障がいをもつ方のことを知

り、ふれ合う中で、社会にはさまざまなことを抱えた人がおり、そのような人たちも一緒に自分らしく生きていくために、自分たちにできることを考えていくことができた。多様性を認めるという観点では、とても重要な機会であった。

実践⑤では、実践①から④を受けて、“みんなが”自分らしく生きることができるようになるために、自分自身や周りの人々を受け入れ、多様性を認めていくことの重要性を考えていくことができる授業を取り入れた。これまで他人事のような感想を書いていた生徒も、この授業を通して、自分ができることを具体的に考えることができ、自分らしく生きるためには、周りの理解や協力が必要であることに気付かせることができた。このことに気付くことができたのは、実践①から④までの積み重ねがあったからであると考えている。

(3) 実践のまとめ

今回の実践を通して、はじめから「男らしさ、女らしさなんてない」「仕事に性別は関係ない」と考えていた生徒も、潜在的に固定観念をもっていたり、わかっているけれども行動には表れてはいなかったりしたことに気付くことができた。また、自分らしく生きることについて、「自分が”自分らしく生きる”の範ちゅうで考えがとどまっていた多くの生徒も、どのようにしたら“みんなが”自分らしく生きる”ことができる社会になるか、そのために自分は何ができるのかということにまで考えを広げることができた。ジェンダーに関する固定観念や他人に左右されることなく、自らの意思で生き方を選択するだけでなく、みんながお互いを理解し、認め合うことができるようになることで、本研究のめざす「自分らしさを大切に、主体的に生き方を選択できる生徒の育成」に真に迫ることができるのではないだろうか考える。そのためにも、今後も継続して「自分らしさ」について考える機会や、話し合いや振り返りを通して多様性を認める機会を設け、生涯を通して自分らしさを大切に、生き方を選択できるよう、支援していきたい。

9 啓発活動

(1) 学習会 <適時>

ジェンダー平等教育についての啓発活動を効果的にすすめられるよう、学習会で利用できるプレゼンテーション用資料を作成し、希望する各単組・支部に配付している。有意義な学習会が開催されているとの報告を受けている。

9月には、「男女がともに輝ける社会を」というテーマで、学習会を開催した。男女共同参画社会の実現にむけて、制度面、意識面、そして「ジェンダー平等をめざす教育の実践」について提案し、参加者ととも学習を深めた。意見交換を通して、性別に関係なく個性や能力を発揮できる社会の実現のためには、わたくしたちおとなが自分自身の意識改革を行い、日々の教育活動や家庭生活の中で、子どもたちに自立して生きる力を身につけさせることが大切であると確認し合った。

2月には、青年部・女性部合同学習会を開き、本年度授業実践を行った「ジェンダー平等教育」の成果と課題について男性を含む青年教員とともに、話し合う場を設けている。

(2) 愛知母と女性教職員の会 <10月>

「21世紀をになう子どもたちのために ～心に寄り添い育もう 自分らしく生きていく力を～」のテーマのもと、男性の参加者も交え、「愛知父母と教職員の会」を開催した。全体会では、本実践を中心とした「ジェンダー平等教育」についての提案を行い、その後、「ひとつひとつ、少しずつ。～夢をあきらめない晩成力～」と題して、鈴木明子さんの講演を行った。分散会では、提案や講演を受けて「自分らしく生きること」「子どものために保護者として教職員としてできること」というテ

ーマで話し合いを行った。「おとなが固定観念をなくし、子どもたち一人ひとりと向き合うことが必要」などの意見が出された。最後に「これからわたしは！宣言」として、全員がこの会で得た思いを書き、子どもへのかかわり方や、今後の自分の生き方についての決意を固めた。

(3) 「女性部報」、機関紙「愛教」、機関誌「はりみち」に掲載

日々の実践に活用していただけるように、愛教組連合のめざす自立の教育についてのとりくみを全組合員に情宣している。

Ⅲ 研究のまとめ

1 授業実践による成果

子どもたちをとりまく社会が大きく変化している時代だからこそ、男女という性別の枠にとらわれず、自己実現していく力をつけてほしいと考える。

そこで、「一人ひとりが自立し、ともに生きる力をどう育てるか—自分らしく生きることを考える実践を通して—」を研究テーマとし、中学校1年生を対象に実践を行った。「自分自身や周りの人々を受け入れ、多様性を認めることができる」と「ジェンダーに関する偏見やステレオタイプにとらわれず、自分らしく生きることについて考えることができる」の2点に重点をおき、「自分らしさを大切にし、主体的に生き方を選択できる生徒の育成」をめざした授業実践を展開した。実践を重ねる中で、子どもたちは、家庭内での役割や職業に関して、固定観念をもっていたことに気付くことができた。さらに、自分が自分らしく生きるだけでなく、みんなが自分らしく生きることができる社会の実現にむけて、できることは何かを考えさせることができた。これから、進路や生き方をより具体的に考えていく中学生という段階において、固定観念に左右されず、お互いを理解し認め合う大切さを考えられたことは、一定程度評価できるものとなった。

2 啓発活動による成果

「学習会」「愛知父母と教職員の会」の開催や、「女性部報」、機関紙「愛教」、機関誌「はりみち」による情宣活動を通して、各単組・支部では、次のようなとりくみがすすめられた。

- ・ジェンダー平等教育の実践の試み
- ・性別による固定観念にとらわれない子どもへのかかわり方の試み
- ・保護者への「自分らしく生きる」ということについての問題提起

3 今後の課題

- ・「男女共同参画社会」の実現にむけて、性別による役割分業意識や固定観念をもつおとなの意識改革を地道に行うこと。
- ・教育現場でのジェンダー平等に関するとりくみについての研究を深め、各校の実態や発達段階に応じた年間計画を立案し、学習する機会を増やしていくこと。
- ・ジェンダー平等にむけたとりくみに、男性の参加をさらに促していくこと。